

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 豊かな心を持ち、ともによりよい生き方を求め行動する子どもの育成
- ①楽しさと充実感を味わい、「確かな学力」を身に付ける学びの実践
- ②自ら学び、主体的に考え、表現する力を養う指導内容や指導方法の工夫・改善
- ③一人一台端末の効果的活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 立田 誉之	教頭 武知 将人
前田 美里		教務主任 新開 大輔	研修主任 小坂 千絵
		低学年 小坂 千絵	中学年 新開 大輔
		高学年 藤田 拓弥	
		特別支援教育コーディネーター 久保山 結貴	

校長

立田 誉之

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組み、全体的に基礎的・基本的な知識技能の習得が高まっている。 ●文章を正しく読み取ることや身につけている知識等を関連付けることが課題である。	・基礎的・基本的な知識技能を確実に身に付け、他の学習や生活場面で活用することができる。 ・文章の要旨を捉えたり、問いの意図を正しく理解したりすることができる。 ・学習課題と既存知識のつながりに気付く。	・里浦スタンダードを引き続き実践し、学習規律を徹底する。 ・100マス計算や自主勉強を継続する。 ・あわスタや子ども新聞などを活用し、読む習慣をつけ、語彙力や読解力を高める。 ・教科横断的な学びの視点をもつ。	・里浦スタンダードを意識した指導ができていない。デジタル版のあわスタの利用機会を家庭学習や朝学タイムに設けて新聞を読む時間をしっかり確保する。	・里浦スタンダードを意識した指導ができた。 ・子ども新聞の一面を読み、意見を伝え合ったり、簡単な問題を出して答えたりする活動を通して、少しずつ読む体力が付き、読解力もついてきた。 ・学んだ知識を活用することはできているが、応用することは難しい。	・引き続き里浦スタンダードの徹底。 ・引き続き子ども新聞を読む時間を確保し、全校的に取り組み、読む体力と読解力をつける。 ・教科横断的な視野を持ち、学んだ知識を応用させる授業を行う。 ・コグトレの時間の確保。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の意見を発表したり、話し手の意見をしっかり聞いたりすることができる児童が多い。 ●複数の資料の中から必要な情報を取り入れ、根拠を基に自分の考えを説明したりすることが課題である。	・課題解決のために、様々な情報を収集し、必要な情報を捨捨選択することができる。 ・自分の意見を正確に伝えるために、根拠や理由を明らかにしながら、話したり書いたりすることができる。 ・常に相手を意識した対話ができ、仲間と協働することで思考を広げ深めることができる。	・目的や活動場面に応じ、タブレットを有効活用した授業づくりに全校で取り組む。 ・根拠となる情報を集め、それをもとに思考、判断する学習を展開する。 ・日記や作文指導を適宜行い、自分の考えをまとめたり、思いを伝えたりするなどの機会を設ける。 ・絵や図、写真や動画を説明したりプレゼンテーションの機会を設けたりすることで、わかりやすく相手に伝えることを意識させる。	・タブレットを日常的に活用することができていない。低学年児童のスキルの向上を図る。 ・思考スキルを活用した個別最適な学び、話し合い活動により学びを深める協働的な学びを共存させた授業スタイルを実践する。 ・朝学タイムを利用して書く活動を増やす。 ・総合的な学習の時間を中心に学習活動をまとめ発表する機会を増やす。	・タブレットを文房具のひとつとして効果的に活用し、児童の意欲を高め学習に取り組むことができた。 ・タブレットや思考スキルを活用した個別最適な学び、話し合い活動により学びを実践することができた。 ・プレゼンテーションをつくる機会をもつことにより、相手を意識して伝えようとする姿が見られるようになった。	・ソーシャルスキルトレーニングを活用して、聞く力もつけ、自分の考えをまとめることができるような取り組みが必要。 ・学習の中で思考ツールの有効な活用の仕方を更に研究する。 ・引き続き、個別最適な学びや協働的な学びを実現できるように、授業改善を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には真面目に取り組み、最後までやり遂げる児童が多い。 ●難しいことや不得意なことに対して、自分で計画を立てて、克服しようとするに課題がある。	・自分の学習の課題と目標を明確に持ち、計画を立て、課題解決することができる。 ・互いを認め合い、励まし合って共に成長することができる。	・日々の授業、100マス計算や自主勉強などにおいて自分のめあてをスモールステップでもたせ、定期的に振り返る機会をつくり、達成感を得ることによってステップアップできるようにする。 ・学年通信や教室掲示等で、児童の学習の姿を伝え、家庭も含めて児童の頑張りを認めるなど、褒めて伸ばす教育環境をつくる。	・個別の目標を活動や学習前に提示したり、振り返りの時間に学んだことを文章で書かせたりすることで、自らの学びをしっかりと見とれるようにする。 ・学年通信や連絡帳で児童のよさを伝えている。学校ホームページでも子どもの学習面での成長を伝えていく。	・めあてのもたせ方や振り返りの時間の確保などが十分でなかった。 ・ノートやプリント、タブレットを活用した作品の整理や共有など振り返りを通して、達成感を感じ、意欲的に学習することができた。 ・学習や行事、日記などでの児童の様子を学年通信などで伝えることができた。	・振り返りの時間の確保や振り返りの仕方を共通理解する。 ・学習のめあてに応じてのスモールステップを考え、児童が達成感をもち意欲が継続できるようにする。 ・個別の目標をもたせ、自らの学びを見とる方策を考える。

令和5年度 学力向上ロードマップ

